

重症心不全治療の現状

— 補助人工心臓で社会復帰が可能に！ —

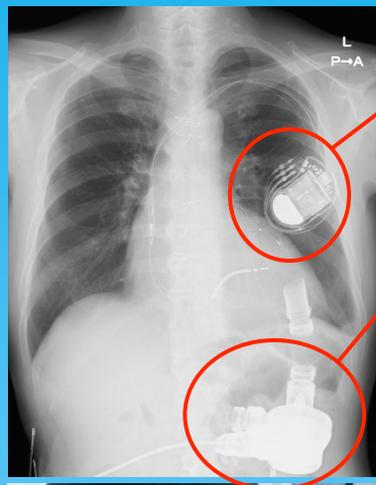
いつも国循の重症心不全診療にご協力いただき、ありがとうございます。2011年4月、植込型補助人工心臓（LVAD）が移植までの橋渡し治療として保険償還されて以降、80例の植込型LVADを装着いたしました。

植込型LVADを装着し、2年半働きながら移植を待機しました。

本邦の心臓移植数は増加傾向にあります。心臓移植待機患者が実際に心臓移植を受けるためには数年単位の移植待機が必要です。しかも従来、この長期移植待機期間には多くの症例が体外式LVAD装着や強心剤の点滴治療下に長期の入院生活を強いられてきました。

植込型LVADの保険償還により在宅での心臓移植待機が可能となりましたが、一部の安定している症例では移植待機期間に復職や復学、場合によっては新規に就職され、社会復帰を果たしています。

当院にて植込型LVAD装着し、その後心臓移植を受けられた男性（右写真）はLVAD装着1年後に復職され、その後心臓移植を受けられるまで2年半に渡り、勤務を継続されました。ご家族や職場同僚の協力があったからこそですが、ほぼ通常の日常生活を送りながら移植待機され、無事心臓移植を受けることができました。心臓移植手術後も職場復帰を予定しています。

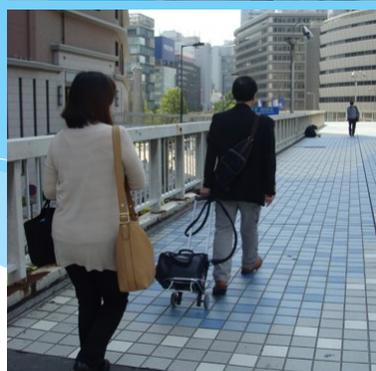


CRTDが装着されています。

植込型LVADです。左室心尖部から脱血し、上行大動脈へ送血しています。

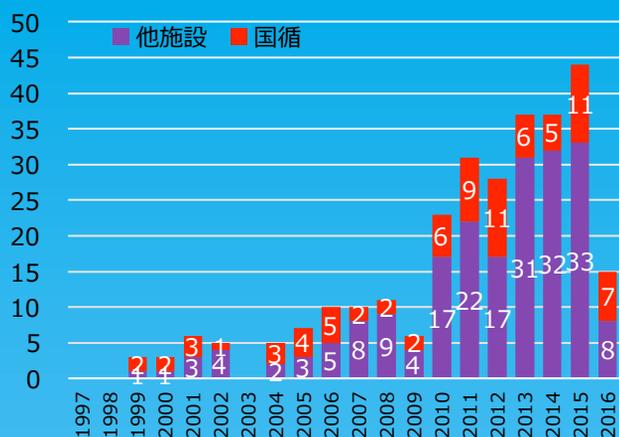


左：月1回外来へ通われました。
左下：奥様とともに通勤されました。
下：会社ではデスクワークをほぼ通常通りこなされていました。

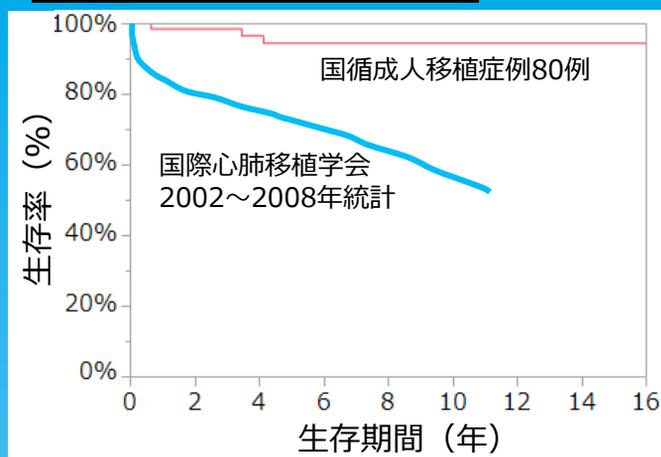


一心臓移植症例数は81例に達しました！

国内及び国循における心臓移植数年次推移
2016年5月31日現在



国循心臓移植症例生存率
心臓移植国際レジストリーとの比較



国循での心臓移植症例数が2016年4月に81例に達しました（6歳未満の小児例1例を含む）。今年心臓移植を受けられた7例のうちすでに6例は一度退院され、元気に自宅にて過ごされています。移植後1年間は特に拒絶反応や感染に注意を払いながら徐々に通常の生活に戻られています。

国循で心臓移植を受けられた成人症例80人の生存率は10年生存率で95%と非常に良好です。

心臓移植は特発性心筋症以外にもいわゆる虚血性心筋症や筋ジストロフィーといった2次性心筋症、その他成人先天性心疾患の一部も適応となる可能性があります。当院は様々な基礎疾患による心不全症例の移植適応についての相談も受けつけています。

お気軽にご相談ください

- 65歳未満で、心不全や難治性不整脈により入退院を繰り返す症例
- 強心剤からの離脱困難症例
- 若年心筋症症例
- 心臓移植、LVAD治療適応の判断について

連絡先： 代表から移植医療部医師へお願いします。

●電話番号：06-6833-5012(平日), 06-6833-5015 (休日)

●緊急時：090-7351-5085 (瀬口医師) e-mail: oseguchi@ncvc.go.jp

***広範囲心筋梗塞や劇症型心筋炎といった心原性ショックを呈する緊急症例のLVAD治療にも対応いたします。**

当院ホームページ：

